

不妊症や不育症で悩む方を支援します

医療保険が適用されず、高額な医療費がかかる、特定不妊治療や不育症の検査費用の助成など、不妊症や不育症でお悩みの方を支援します。

特定不妊治療費助成の助成上限額を増額しました

特定不妊治療費助成は、体外受精および顕微授精に対し、費用の一部を助成する制度です。今年度から助成上限額を増額しました。

変更点 2020年4月1日以降に終了した治療で、2回目以降の採卵を伴う治療（治療A・B・D・E）のうち、いずれか1回の治療の助成上限額を増額。

治療内容	助成上限額		
	初回	2回目以降	2回目以降のうち、いずれか1回
治療B（凍結胚移植を実施）	30万円	15万円	30万円
治療A（新鮮胚移植を実施）	30万円	15万円	25万円
治療D（体調不良などにより移植のめどが立たず治療終了）			
治療E（受精できずまたは、胚の分割停止、変性、多精子授精などの異常授精などにより中止）			
治療C（以前に凍結した胚を解凍して胚移植を実施）	7万5千円		—
治療F（採卵したが卵が得られない、または状態のよい卵が得られないため中止）	7万5千円		—

申請には、領収書の原本が必要ですので、大切に保管してください。対象、申請方法など詳しくは、[千葉市 特定不妊治療費助成](#)

問保健福祉センター健康課

中央 ☎221-2581 FAX221-2590 花見川 ☎275-6295 FAX275-6298 稲毛 ☎284-6493 FAX284-6496
若葉 ☎233-8191 FAX233-8198 緑 ☎292-2620 FAX292-1804 美浜 ☎270-2213 FAX270-2065



不育症の検査にかかる費用を助成します

妊娠をしても、流産や死産などを2回以上繰り返し、子どもを持つことができない場合を不育症といいます。

検査を受けることで適切な治療につながります。

対象 2020年4月1日以降に受けた、保険適用外の不育症の検査

助成額 検査に要した医療費の2分の1（上限10万円）

申請方法など詳しくは、[千葉市 不育症検査費助成](#)

不妊専門相談センター

医師や助産師などが、医学的・精神的な相談に応じています。

医師・助産師による面接相談

日時 月1回水曜日14:15～16:30
年3回金曜日17:45～20:00

7月は、8日(水)14:15～16:30に行います。

場所 保健所

定員 先着3人

申込方法 電話で、健康支援課へ。

助産師による電話相談

7月16日(休)から、助産師による電話相談を始めます。

相談時間 原則木曜日15:30～20:00（最終受付19:30）

相談番号 090-6307-1122

詳しくは、[千葉市 不妊専門相談センター](#)

問健康支援課 ☎238-9925 FAX238-9946

熱中症を予防しましょう

熱中症は、気温が高いなどの環境条件だけでなく、体調や暑さに対する慣れなどが影響して起こります。熱中症の症状には手足のしびれや頭痛、嘔吐（おうと）などがあり、重症化すると命を落としてしまうこともあるので、注意しましょう。

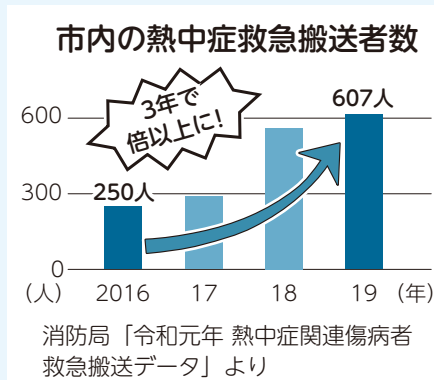
市内の熱中症救急搬送

昨年、市内で熱中症で救急搬送された人は、607人。2016年の倍以上になっています。

また、年代別で見ると、70歳代が111人、80歳代が116人で、この2つの年代で全体の3分の1以上を占めています。

特に注意しましょう

- 急に暑くなった日や久しぶりに暑い環境で活動した時には、体が慣れていないため、体温調節がうまくいかず、注意が必要です。
- 晴れた日は地面に近いほど気温が高くなるため、幼児や車椅子の方は想像以上に暑い環境にいます。また、幼児は体温調節機能が十分発達していないため、特に注意が必要です。
- 高齢になると、温度や湿度に対する感覚が鈍くなるため、室内でも熱中症になることがあります。



基本的な予防方法

水分と塩分の補給

こまめに水分を補給し、汗をかいたら塩分も補給しましょう。

外出時の予防方法

日傘や帽子、通気性の良い涼しい衣服を着用しましょう。日陰などでこまめに休憩を取ることも大切です。

また、晴天の屋下がりはなるべく外出を控えましょう。

問健康推進課 ☎245-5794 FAX245-5659

今年は特に注意！

今年の夏は、新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅で過ごしたり、マスクを着けたりする機会が例年より多く、熱中症の危険が高まります。特に注意しましょう。

屋内での予防方法

エアコンや扇風機を使い、温度を調整しましょう。扇風機は天井に向けて回すと効果的です。

また、遮光カーテンやすだれを利用したり、冷却グッズや保冷剤などを活用したりしましょう。戸建ての最上階は熱がこもるため、特に対策が必要です。

マスク使用時の注意点

マスクを着けると、マスク内の湿度が上がって喉の渇きを感じづらくなります。よりこまめに水分を補給しましょう。

屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクを外しましょう。

また、マスクを着用しているときは、負荷のかかる作業や運動を避け、適宜、人との距離を十分にとってから、マスクを外して休憩しましょう。

停電時の熱中症にも注意しましょう

冷房がなくても体温を下げる方法

洗面器に水をはって手のひらや足の裏をつける、ぬれたタオルで体を拭きうちわであおぐなどすると、気化熱で体温を下げられます。